



バスラ日誌（5月15日）

1 先日紹介した第20旅団の部隊章「拳（こぶし）マーク」である。彼らもそのものズバリ「フィスト」と呼んでいる。第7旅団のマークより強そうだと思うがいかがだろうか。皆さんこのマークを左胸につけて誇らしげである。まだ、その由来については聞いていないが、そのうち何でも知っていそうな（自衛隊の隊付准尉のような）人を見つけて聞いてみようと思う。左下の写真の方も、この部隊章を誇示するようなポーズで写真に収まっている。この方が、誰であるかについては、内緒である。



第7旅団と第20旅団のどちらが精強かについてはまだわからない。ただ、マークを見た印象だけを言っているので悪しからず。一昨日夜（昨日未明）バスラシティの橋梁付近をパトロール中の英軍車両がIED攻撃を受け、2名の方が亡くなりました。1週間の内に7名の殉職者を出したことになる。イラク作戦開始後の英軍の殉職者は、これで111名になった。昨日、隣のコンテナにいる警備中隊の人が、武器手入れをしながら、「あと12日で帰れます。」と話してくれた。『最後の日まで気を付けて。』と言うと「ありがとう。皆が、自分の事をチキンと呼ぶくらいだから大丈夫です。」との事。臆病と言われるくらいいいと思う。細心の注意を払っているということだから。

こちらに来た時の新着任者教育で、ROEの教育があり、英国も日本と同様に、武器使用条件がかなり厳しいものであることを、ずーと前の日誌に書いた。その時説明を聞いていた米軍下士官が、「シュート（撃つ）」を連発していたのも興味深かった。脅威が存在すれば、まず撃つ部隊と、慎重に状況を考慮してからしか武器を使用できない部隊とは、対処方法も異なるかもしれない。自衛隊が、将来の対応について研究するのであれば、英軍の方が参考になるのではないと思う。

2 本日快晴。バスラ4名、極めて健康。